

新聞から読み取る 「対立」と「合意」

姫路市立坊勢中学校 皆光 潤
 (研究発表時 姫路市立飾磨中部中学校)

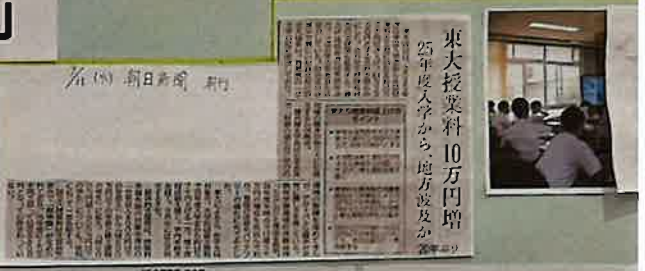
実践の背景と目的
 社会科学の分野において学習する「対立」と「合意」、授業を通じて用語を理解する生徒は多い。一方で、社会ではいつの時代も、あらゆる場所で「対立」が起こり、その度に「合意」図られていることに気づく生徒は少ない。新聞は現代社会のそれらを読み解く良伴のツールである。今回の学習を通じて時事に興味を持ち、そのことが生徒の社会参画を促し、社会を主体的に生きる公民の育成に繋がればと思い、今回の授業を企画した。

実践の流れ
 「対立」と「合意」について教科書をなぞりながら学習を行った。その上で、まずは実践の前段階として、教師が発表の例を挙げた。「東大大学の授業料値上げについて」を取り上げた。

- その後、これからの流れ（4時間構成）について説明した。1班は4人程度。
- 実践① 新聞を読み、題材とするニュースを決定し、ワークシートに記入し、班員に分かりやすく整理しよう。討ちあいの時間を各自でとめよう。
 - 実践② 班員それぞれが自分の記事について発表し、全班発表のためのニュースを選定する。班員で全体発表に向けて役割分担を行う。配布用の新聞記事の切り抜き、配布用のワークシートの記入、発表用スライドの作成、発表原稿の作成を行う。
 - 実践③ 全体発表に向けて、各自が作業を行い、班内で最終調整を行う。
 - 実践④ 全体発表。事前に各班のワークシートと新聞記事を配布し、全員に目を通させた。スライドを持ってプレゼンテーションを行う。

3 実践② (NIE 研究授業として公開)
 最初に各自がワークシートをもとに発表を行った。ニュースには敏感であるが、新聞を通して情報を得ることに慣れておらず、対立立とうまく見出せない生徒が多かった。また、中東問題や外交問題を取り上げ、その背景の深さに悩む生徒もいた。記事を選ぶことの難しさを実感した。その一方で、自分の得意な分野を生かして、うまくまとめている生徒や自分が面白いと思ったものを速出し、人を引きつける発表している生徒もいた。その後、班の中から、最も面白い(まとめでやすい)記事を選び、役割分担を行った。

4 実践④
 ワークシートをうまくまとめ、興味を持たせる短くプレゼンテーション力が高く、効果的な演出で聞いている人を引き込む班もあった。「合意」に当たらないニュースが多く、ぼとぼと聞こえてくる班が多い印象があった。発表後はルーブリック評価表を用いて、発表班を除くクラス全員で評価を行った。右はプレゼンテーションの一部を切り貼りしたものである。



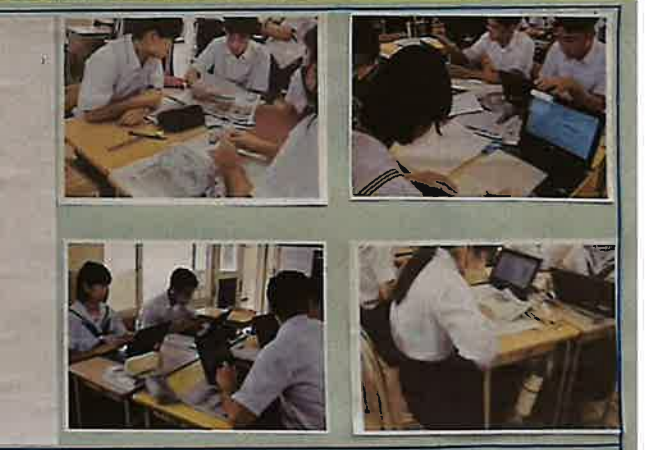
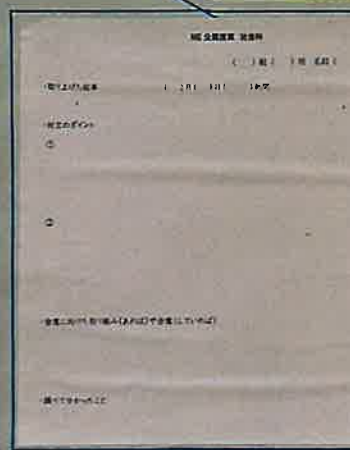
東大総長

2024年5月
 最大の
 ニューズ
 報じられ

大学側の主張
 国からの運営費交付金の減少や世帯収入の上昇などにより、新卒者の返済が容易な状況にあることに加え、増収分の20億円を教育環境の充実に向けて活用する。

国から国立大学への交付金

東大総長



①

JR東海の主張

静岡県側の主張

②

JR東海の主張

静岡県側の主張

①

JR東海の主張

静岡県側の主張

5 投票後について

「対立」と「合意」について、新聞を通じてその概念の知識を一貫化することで、自分の身に携けた生徒が多かったと考える。何より、この授業以降、新聞を手にとる(新聞社の購読)で